

むかし、尾山おやま てんじんの天神さまからちょっと下ったところに、大きな深い岩穴がありました。そこに天狗てんぐが住んでいました。その尾山おやまから、五月川さつきがわをへだてた川向かいに、嵩山だけやまという高い山がありました。その大きな松の木にも、天狗が住んでいました。

ある日のこと、尾山の天狗が、嵩山の天狗に、

「おおい、嵩山の天狗さんよう。このごろ暇でしかたがない。何かおもしろいことでもないかのう」と呼びかけました。

嵩山の天狗は、

「おお、おれも暇でしかたがない。何かやってみようじゃないか」といいました。

「何をしようか」

「そうだなあ。石で何か作ってみようか」

そこで、尾山の天狗が、

「おれは、今流行はやりはじめた、はさみというものを作ってみるわい」というと、嵩山の天狗は、

「おれは、海にいたる大きなくじら、あれを作るわい」といいました。

「よし、では早く作ろう。おたがいに見せ合あいしようじゃないか」

あくる日から、カッチンカッチンと岩をきざむ音が、月ヶ瀬つきがせの五月川の山間やまあいにこだましました。

毎日毎日、カッチンカッチン、カッチンカッチン。

そうして、ようよう、

「おおい、できたかあ」

「おおい、できたぞう」

尾山の天狗が、

「ようし、では一度、おれの所へ見にきてくれ」というと、嵩山の天狗は、
ばああと山を下りて川を上って、尾山まで来ました。すると、ものすごく
大きなはさみができていました。

「うわあ、みごとだなあ」



嵩山の天狗は、びっくりしました。

「よし、こんどはおれの所へ見にこいよ。ものすごいくじらを作ったんだ」

そういいながら、「とにかく一杯飲もう」と乾杯して、尾山の岩の上でふたりきげんよくお酒を飲んでいました。そのときいきなり、ぐらぐらぐらつと、大きな地震がおきました。

さあ、たいへんです。ふたりの天狗は、あわてました。尾山の天狗は、はさみを両手でガツとつかまえました。嵩山の天狗は、山のでっぺんに乗せてある大きなくじらがころがり落ちないように、走ってつかまえに行きました。ところが、嵩山の天狗がもうすぐ山に着くというところで、くじら石は、ゴロゴロゴロツともものすごい音をたててころがり落ちました。

それで、五月側のそばには、くじら石ができ、天神さまの下にははさみ石ができました。

今は、ダムができて、どちらの石もしずんでしまいました。